（1）

氏名(生年月日)　半田　幸子（ハンダ　サチコ）
本　　籍
学位の種類　医学博士
学位授与番号　甲第 113号
学位授与の日付　昭和51年5月21日
学位授与の要件　学位規則第5条第1項該当（医学研究科専攻，博士課程修了者）
学位論文題目　**糖尿病虹彩の蛍光血管造影法による観察**
論文審査委員　（主査）教授　内田　幸男
（副査）教授　鎮目　和夫，教授　福山　幸夫

論文内容の要旨

研究目的

糖尿病の眼合併症として網膜症の重要性は周知のことである．他方，直接的に視機能に影響する程度は少ないとはいえ，虹彩の病変も無視できない．虹彩の血管病変をしらべるのに蛍光血管造影という方法がある．しかし有色人種の虹彩では色素が妨げとなつて血管が見難いという理由もあつて，わが国ではほとんど顧みられていない．糖尿病の虹彩血管の検査に本法がはたして価値ないものか，あるいはどの程度役立つのか検討を試みた．

研究方法

糖尿病患者65名，他の眼疾患患者20名を対象とした．ニコン細隙灯顕微鏡写真装置を用い，光源光路にWratten No. 47A，撮影鏡筒内に Wratten No. 12のフイルターをそれぞれ挿入した．10%フルオレスセインナトリウム5～7ml を肘静脈から注入し，観察しながら約5秒間隔に撮影を行なつた．隅角部の撮影には Goldmann 型隅角鏡を使用した．

研究結果

糖尿病患者65名，104眼中76眼（73%）の虹彩に異常な蛍光色素の漏出を認めた．

漏出の型には瞳孔縁に点状または棒状の蛍光を示した64眼と，まず虹彩面上に血管の形が造影され，ついでこれから糸屑状，放射状，網目状に漏出した12眼と，2つの型があることがわかつた．後者の型のうち通常の観察では認められなかつた虹彩の新生血管が本法によつてはじめて発見されたものが7眼あつた．

蛍光色素漏出の程度を4段階に分けると，この軽重と Scott 分類による網膜症の病期との間には，かなり並行する傾向のあることがわかつた．ただし検眼鏡的に網膜症を欠く例でも軽度の漏出を示す例があつた．

患者の年齢が加わるにつれて漏出例は増加する．また糖尿病罹患期間が長くなるほど漏出例は増す．6年未満までは漏出陰性が約半数を占めるが，それ以後になると約90%が漏出陽性であつた．

前房隅角の血管新生も蛍光造影法によつて観察と記録が可能であり，緑内障合併を予知するのに役立つと思われる所見を得た．

虹彩 stroma 中を走る血管を造影することはできなかつた．しかし蛍光の異常漏出を検索するという点に関しては，本邦人の虹彩の濃い色素も本法の妨げとはならないと判断された．眼底の観察不可能な糖尿病者において，本法は網膜症所見に代つて病期の判定に参考となる資料を提供すると考えられた．

論文審査の要旨

本論文は蛍光血管造影法によつて糖尿病患者の虹彩血管の異常を追究したものである．糖尿病患者においては正常者に見られない異常血管の造影と蛍光色素の漏出があり，この程度が網膜症の重症度，糖尿病

罹患期間等と関係することを見出した．従来本邦人において観察困難と考えられていた虹彩血管の蛍光造影は可能であり，かつ糖尿病期の判定にも応用しうることを示した学術上価値ある論文である．

主論文公表誌

糖尿病虹彩の蛍光血管造影法による観察．
臨床眼科 **30**巻 1号 49～54頁（昭和51年1月）

副論文公表誌

1) ライン引き用の生石灰による眼腐蝕の1例．
眼科臨床医報 **67**（5） 437～ 439（昭和48年）

2) Tonair Applanation Tonometer の使用経験．
東女医大誌 **43**（12）16～19（昭和48年）

3) 放線菌による涙小管炎の3例．
眼科臨床医報 **68**（1） 57～60（昭和49年）

4) 急性炎性緑内障の発症時年齢．
日眼会誌 **78**（4） 173～ 177（昭和49年）

5) Poxocariasis が疑われる Leucocoria の1例．
眼科臨床医報 **68**（6） 24～28（昭和49年）

6) 帯状ヘルペス角膜炎の病像について．
日眼会誌 **78**（10）1073～1078（昭和49年）

7) 出血性網膜色素上皮剝離の1例．
東女医大誌 **45**（3） 98～ 102（昭和50年）

8) 水晶体前嚢の Pseudoesfoliation について．
東女医大誌 **45**（4） 83～87（昭和50年）

9) Oculo-dento-digitaldysplasia syndrome の1例．
眼科臨床医報 **69**（9） 1105～1109（昭和50年）